

“ビアガーデン2024” 開催

7月13日(土)16:00~ 旧まさの様駐車場

羽田地区振興会は、羽田商工会と共催し、7月13日(土)に、旧まさの様駐車場で、“ビアガーデン2024”を開催します。これは、羽田地区振興会商工観光部会が、今年度の推進目標「活気と賑わいのあるまち」に基づいて、企画したものです。新型コロナウイルスによることもあり、羽田のまちから賑わいが消えつつある状況下、何とかして、人を呼び込むことを狙って、実施しようとする準備を重ねてきました。

振興会だより

令和6年6月27日発行
編集・発行 振興会
羽田地区センター

メニューは、ビール、焼きそば、焼き鳥をメインとしております。また、お子様向けに、お楽しみ抽選会を実施、加えて、バンド演奏等を

企画しています。

梅雨時の夜、暑さを親子で吹き飛ばせる内容となっておりますので、どうぞ足をお運びくださればと切に望むものであります。

詳細は、全戸配付される「広報お知らせ版」の第一面をご覧ください。

羽田のまちづくりに向けて

古玉先生のお話を聴く

羽田地区振興会では、これからの羽田のまちづくりに向けて、多方面で活躍する方々から、お話を聴く機会を設定し、地区の皆さんと共に、羽田のまちづくりについて考えていこうと思っております。

その手始めに、こだま歯科クリニックの古玉芳豊先生から、6月の自治協議会でお話をさせていただきました。そのお話は、無くなったものは

【地区要望意見交換会が7月末に開催されます】

羽田地区振興会から10項目を要望

令和6年度地区要望意見交換会が、以下のねらいのもと実施されます。1つには、「市が地域の要望・課題を把握し、行政が関与すべき項目を市政へ反映させること」、2つには、「地域においては地域内の話し合いを通じて課題を認識し、課題解決に向けて主体的に地域運営に関わること」です。(市の資料による)今年度も羽田地区振興会から市へ、10項目の地域課題を提出しまし

た。7月30日(火)、市役所講堂において、市担当課と振興会代表(会長ほか3名予定)が提出した課題について意見交換を行います。この意見交換会を経て、市側の回答は9月上旬に届く予定になっています。なお、昨年度から、市の所管する部署は、「協働まちづくり部」、名称は「地区要望意見交換会」となっております。(提出項目は裏面を参照願います)

お疲れ様でした

羽田地区振興会各部署は、環境整備作業を実施!

- 建設防災部会
・ 鋳物歴史公園環境整備
5月18日(土)
- 農林保健部会
・ ふれあいの森環境整備
5月18日(土)
- 商工観光部会
・ 水沢江刺駅周辺環境整備
6月15日(土)
- 文教福祉部会
・ アテルイ・モレ慰霊碑周辺環境整備
6月1日(土)



自治協議会6月定例会でお話をする古玉先生

仕方がない、あるものを有効活用することが大切ということです。

羽田では、水沢江刺駅、伝統産業の鋳物工芸、Zアリーナ等を活かした取り組みと、若い人たちの考えを取り込む、以上2点を話されました。

令和6年度地区要望項目

- 1 江刺開発に併せた羽田振興策
- 2 空き家対策
- 3 芦ヶ沢水路の改修工事
- 4 荒川の川底掘削
- 5 旧羽田幼稚園跡地利用
- 6 人口減少対策
- 7 まちの活性化対策
- 8 市道33244のライン引き直し
- 9 市道3042・3045の舗装工事
- 10 市道33020の舗装改良工事

江 白 白 新 聞

2024年(令和6年)6月20日(木曜日)第27174号

半世紀続く飲食店継承



水沢羽田町のチロルを引き継ぎ今夏に新店舗をオープンさせる太田和美さん

水沢 羽田町
今夏、喫茶オープン
太田和美さん(奥州市地域おこし協力隊)

奥州市地域おこし協力隊の太田和美さん(36)は、今月30日に閉店する水沢羽田町の「スナック喫茶チロル」(菊池須美子店主)を引き継ぎ、喫茶「あーらら」(アウン)を今夏オープンさせる。菊池店主(72)や常連客に見守られながら店舗運営や人気料理を学んでおり、継承の準備を進めている。鋳物の町で職人や地域住民、観光客らが集い、南部鉄器の魅力も伝える店にしたいと奮闘する。
 (河東田ひかり)

南部鉄器の魅力発信も

チロルは1975(昭和50)年6月に開業。菊池店主の手作り料理と入柄に魅せられ地元民や鋳物職人らが通う名店だが、50年を機に閉店することが決まっている。23(令和5)年6月に協力隊となった太田さんが初めて来店したのは同7月。半世紀にわたる愛されてきた店の価値を思い、すぐに継承を決意した。太田さんは民宿や居酒屋で働いたことがあるものの、飲食店を切り盛りした経験はない。店を手伝いながら接客を勉強。人気メニュー「ホルモン(もつ煮)」の作り方も教わり、失敗を重ねながら少しずつ「ママの味」に近づけている。新たな店名は「サンスクリット語の「あうん」。始まりと終わりが同居する場所にした」と名付けた。開店時は、ホルモンなどを南部鉄器で作る料理や飲み物を提供する。個人を対象に鉄器のレンタル事業も行う予定だ。タイに長く住んでい

た同じ協力隊員にタイ料理を教わるなどして、少しずつメニューの幅を広げていくという。
 チロル閉店後、店内の一部改装を行う。8月15日に地元向けプレオープン、南部鉄器まつりが開催される9月28日に本オープンする。

菊池店主は「常連さんに助けられ、続けることができた」と感謝し「心残りはなかったが、火を消さずに引き継いでくれる人がいるのはうれしく」と話す。
 太田さんは店舗継承の周知と資金調達のため、7月11-28日に協力隊の支援サイト「EOKOSHI」でクラウドファンディングに挑戦する。目標額は250万円。「地元の人や鋳物職人はもちろん、観光客もゆくりでできる場所にしていければ、チロルの歴史を大切にしながら鉄器の魅力を伝え、楽しめる店にしていきたい」と力を込める。

「鐵喫茶「あうん」
 ユニティ・セン
 ターとなり
 おこしに、まち
 くりに、新田さ
 人の若い新田さ
 アイデアを借し
 みなく提供して
 切に期待するも
 のであります。